



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間〒共1100円

道標



Yet... Joy! Hope! Gratitude!

市民対象に生き方を考える集い

名瀬聖心教会で永山幸弘神父

六月三日(金)から名瀬聖心教会(永山幸弘神父)で市民講座「生き方を考える集い」(第一部・八回シリーズ)が始まった。主婦や労働者でも受講しやすいように配慮され毎週金曜日、午前の部(十時〜十一時三十分)と午後の部(十九時三十分〜二十一時)の一日二回開かれるこの講座、初日となった三日には午前、午後の部ともそれぞれ五十人ずつが受講した。永山神父が同様の講座を

始めたのは一九八四年のこと。当時、教区本部に組織されていた企画推進部として市民向けに宣教する場を設けてのことだった。そして一九八八年にザビエル教会に着任してからも二〇〇六年三月までこの市民講座は継続され、市民にキリスト教的生き方の素晴らしさを伝え、その受講者を誕生させている。

この春、名瀬聖心教会に着任した永山神父は、奄美市の繁華街に近い教会という立地条件を生かし、市民に開かれた教会を目指して受講料無料のこの講座をスタートさせた。「日常生活の心をめぐって」をテーマにしたこの第一回の市民講座の日程は次の通り。①六月三日「ひまわりのような生き方―人間の渇きとは」②六月十日「生きがいをめぐる―生き」とは③六月十七日「わたしとは―本日の自分を探す」④六月二十四日「日常

2011年きぼうの電話カウンセリング講座予定

回	月	日	曜	講師	内容
	6	10	金	事務局(説明会)	14時・19時の2回
第1回	6	17	金	竹山昭神父	共に歩むためにI
第2回	6	24	金	大坪治彦先生	カウンセリングの基礎知識I
第3回	7	1	金	大坪治彦先生	カウンセリングの基礎知識II
第4回	7	8	金	有倉巴幸先生	職場の人間関係
第5回	7	15	金	有倉巴幸先生	人間関係の中のストレス
第6回	7	25	月	森口進先生	アルコール依存症 その関わりI [公開]
第7回	8	1	月	森口進先生	アルコール依存症 その関わりII [公開]
*	8	26	金	事務局(懇親会)	
第8回	9	2	金	今林俊一先生	家族の人間関係
第9回	9	9	金	今林俊一先生	青少年の心理I
第10回	9	16	金	事務局	
第11回	9	22	木	今林俊一先生	青少年の心理II
第12回		未定		郡山健次郎司教	それでも「きぼうの電話」(仮)
第13回	10	2	日	集中講座	
第14回	10	7	金	事務局	電話カウンセリングの実際
第15回	10	14	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにI
第16回	10	21	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにII
第17回	10	28	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにIII
第18回	11	4	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにIV
第19回	11	11	金	竹山昭神父	共に歩むためにII
第20回	11	18	金	竹山昭神父	共に歩むためにIII/認定式
*	11	25	金	事務局(親睦会)	
*	12	2	金	事務局(研修)	電話相談員の実際(相談員オリエンテーション)

カウンセリング講座を開講

相談員養成も視野にきぼうの電話

鹿兒島きぼうの電話(山口弘子運営委員長)主催のカウンセリング講座が六月十七日(金)から教区本部で始まった。この講座はよりよい人間関係形成を目的に開かれているもので、今回で二十四回目。カウンセリングの基礎知識や青少年の心理について、大学の教授や医師など専門家の話を聞くことができる(講座日程表参照・時間は概ね金曜日十九時から二十一時)。また講座修了者は「鹿兒島きぼうの電話」で、苦しむ人たちの声を聞く相談員として働くこともできる。受講資格は二十歳以上

新風

白百合の園 長時代、多くの励ましと力を与えてくれたのは職員たちでした。一緒に泣き、そして笑いませた。今はその一つひとつを宝石箱に入れていきます。常に子どもの喜びを自分のことのように喜ぶ職員たちでしたが、特に喜び合うのが園児に弟、妹ができたときでした。白百合には五年お世話になりましたが、一年目に主任が「〇〇さんの赤ちゃんが二日前に生まれました。園長先生も行きませんか」。私は「えっ、どこに」、「産婦人科に」答える主任の顔はとても嬉しそう。思わず私は「行こう」とこたえました。

赤ちゃん

あれから何人の生まれ、たばかりの赤ちゃんに出会ったことでしょうか。委ねる力、平和の意味を幼子から学ぶことが出来ます。お母さんの満たされた顔、お父さんの微笑、在園児であるお兄ちゃん、お姉ちゃんたちの笑顔、そして主任、担任の笑顔。私は嬉しくて何回もカメラのシャッターを押ししました。ある人が尋ねました。

「園児募集のため?」 私は即座に答えます。「いいえ、行きたいからです」。聖書には次の言葉があります。「もし、体の一つの部分が苦しめば、すべての部分も一緒に苦しむ、もし一つの部分がほめたたえられれば、すべての部分も一緒に喜びます」(一コリント12:26)

泣く人、苦しむ人に寄り添うことの難しい時代、しかしそれ以上に難しいのが喜ぶ人と共に喜ぶことなのかもしれません。三十年以上も前、かつての加治木教会にお世話になったとき、当時の主任司祭ザンパロ神父様に最初に連れて行かれたのは生まれたばかりの幼子のいる家庭でした。そこで誕生を共に喜ぶ司祭の姿がありました。教会には共に喜び合う事柄がちりばめられています。なぜなら教会は一つの家族だからです。家族の中の一人の喜びは、家族全体の喜びに変わります。そんな当たり前のことを当たり前にできる教会を目指して共に歩みたいと思います。(教区本部・寝占敦之)

新会長にSr.田中

教区修道女連盟総会

教区修道女連盟は五月二十九日(日)、教区本部で総会と研修会を開催した。五十人余りの修道女が出席して開かれた総会では、昨年度の会計報告や今

で宗教は問わない。受講料は全二十回で九千円(学生は四千五百円)で一度支払うと翌年からは無料で受講できたため今回も途中から二十五日と八月一日に開か

れる「アルコール依存症」その関わり(森口進先生)は、二回とも受講できる人に限り、一般にも無料で公開されることになっている。このカウンセリング講座に対する問合せ、参加申込等は山口弘子運営委員長(TEL〇九〇一一六二一七三七二)か辻聡事務局長(TEL〇九〇一五四八八―九六八〇)まで。

年度予算案が手際よく審議された後、任期満了に伴う役員交代があり新役員が次のように発表された(敬称略)。会長 田中文子(長崎純心聖母会鹿兒島修道院)、副会長 澤ヤエ子(レズンブートル宣教修道女会)、書記 山田豊子(長崎純心聖母会加世田修道院)、会計 安岡智子(長



崎純心聖母会天辰修道院)、監査 平川恵子(カノッサ修道女会)、竹森クミエ(長崎純心聖母会川内修道院)。総会後にあつた研修会では、丸野六雄神父(ザビエル教会協力司祭)から「修道生活と癒し」についての講話を聞いた。

奄美カトリック女性連盟総会

会長 久保正子

六月十二日(日)、聖霊降臨の主日に名瀬聖心教会で奄美連の第二十三回総会を開催しました。今年のテーマは、「いのちを守る。ラブ・イン・アクション」。愛の行動を起こしましょう(一コリント・13)にしました。総会には、奄美の七つの小教区から会員約五百五十人が集いました。午前の総会では、昨年度の活動報告、会計報告、役員改選、今年度の活動計画等が審議・承認され、活動報告の中で、今回の東日本大地震、大津波の被災地に仙台教区の日力連理事を通じて、二度に渡って支援物資を送ることができたのは会

員の協力のおかげと報告されました。また、日力連「いのちを守る運動基金」から奄美連の推薦する「ゆずり葉の郷」へ支援金の贈呈、伝達式もありました。「ゆずり葉の郷」とは奄美で青少年の非行や虐待、DV等、さまざまな問題に献身的に取り組んでいるNPO法人です。日力連から奄美への支援金は過去六回に渡り、金額で百六十万円にも上ります。私たちもこの「いのちを守る運動基金」への献金が少しでも増やせるよう努力しなくてはならないと思っています。午後からは「奄美の信仰のルーツ」と題して、大野



和夫神父様にご講演を頂き私たちの知らなかった信仰の歴史や布教のエピソードを教えてくださいました。また派遣のミサは奄美連顧問の永山神父様の司式のもと各小教区の四人の神父様が共同司式して下さい、

藤山義和さん(玉里教会所属六十歳)が、カトリック大阪梅田教会で開かれた集いでデジタル宣教について講演した。この集いは「世界広報の日」の催しとして、聖パウロ修道会、聖パウロ女子修道会、師イエズス修道女会で組織される「パウロ家族」が主催し六月五日(日)に開かれたもの。藤山さんは松浦悟郎司教による今年の広報の日の教皇メッセージ「デジタル時代における真信徒が全国に向けてデジタル宣教を語る 玉里の藤山義和さん」を聴き、そして命の真理性」解説後、約一時間「デジタル宣教の模索」と題して、デジタル宣教に関する展望と課題について約八十人の出席者に向かって講話

司教執務室便り

巨大教区のホノボノ

去る六月六日は韓国戦没軍人慰霊の日だそうで国の休日。そんな日、三人の神学生がお世話になっているインチョン教区創立五十周年記念ミサに招かれた。今回の訪韓はハプニングで始まった。先ずは、お迎えの夫婦が金浦空港に行ってしまったため、待つ、電話をする、バス停を探す等で結局インチョン空港で二人と出会ったのは到着から三時間後。そんなこともあってか、いろいろと興味深いことと連続だった。前日、司教館での歓迎晩餐会で出会ったのは、五十年前三十五歳の若さで司教に任命されたメリノール会の引退司教様。五十年もお勤めになったというのに、まるで六十代かと思われる若さに驚いた。翌日は好天に恵まれ、五万二千人を収容するムンハク競技場に集まった信者は約三万五千人。数百人の侍者の子供たちに神学生、二百人余の司祭団と十八人の司教によるミサの、いわゆる入堂行列は、

サッカー選手たちが子供と手をつないで出て来るあのゲートからトラックを一周するというのが、スタンドから上がる万雷の拍手と歓呼の声に、それは、まるで好取組が期待されるゲームに臨むサッカー選手たちの入場行進さながら。ミサ終了前の祝賀式は、入祭前の雰囲気とは違って、ほのぼのと心温まるものだった。祝辞や感謝状に続いてなされた誓いの言葉は小学生から大人にいたる各年齢層が十数人。しかし庄巻はそのあと、七人と十数人の子供を持つ二組の家族が紹介され、司教様から祝福を受けると、静かなスタンドはまたしても歓声の渦。最後は今年生まれた赤ん坊が母親に抱かれて登壇し各司教から祝福を受けた。私の前にも立ったので赤ん坊だけでなく母親をも祝福。三万を超す人々が時間内に聖体拝領を済ますことができた手はずのよさもさることながら、四十四万四千六百人という巨大教区にもかかわらず、誠実に生きる家族や新しい命を励まし、共に喜ぶ姿に感動した。韓国の温かい信仰に触れた記念のミサだった。



会員を増やしたい 連壮が総会

鹿兒島カトリック連合青年会が、六月五日(日)ザビエル教会ホールで総会と懇親会を開いた。

二〇〇八年に規約改正し、それまで鹿兒島市内の教会で組織されていた同会に加世田、始良、指宿、溝辺、種子島のメンバーが加盟できるようにになっている。同会では今後メンバーを募り、会の基盤を強化するために小教区を訪問し交流していききたいとしている。同会の役員は次の通り(敬称略)。

- 会長 徳永善博(紫原教会)、副会長 高竿寛実(吉野教会)・西久保正志(ザビエル教会)、書記 迫田賢一(玉里教会)、有川弘文(玉里教会)、監査 増田秋男(谷山教会)・田中和幸(吉野教会)

7月会と催し

31日(日)	年間第十八主日	▼福崎英雄神父霊名
25日(月)	聖ヤコブ使徒	▼オリブの会・教区本部・14時
24日(日)	年間第十七主日	▼パッションの会・谷山教会・15時
23日(土)	年間第十六主日	▼ユゼビウス神父命日(一九七九年)
22日(金)	木村敏彦神父命日(二〇〇八年)	▼ティエン神父叙階記念日(二〇〇六年)
21日(木)	年間第十六主日	▼WYD準備会・教区本部・14時
17日(日)	年間第十六主日	▼看護協会血圧測定・吉野教会
14日(木)	年間第十六主日	▼司祭評議会・教区本部・10時
11日(月)	司祭評議会・教区本部・10時	▼村田源次神父命日(二〇〇七年)
10日(日)	年間第十五主日	▼典礼研修会・ザビエル教会・13時30分
9日(土)	年間第十五主日	▼竹山昭神父叙階記念日(一九六七年)
4日(月)	年間第十四主日	▼栃尾泰英神父叙階記念日(一九九三年)
3日(日)	年間第十四主日	▼イエスの心
1日(金)	年間第十四主日	

青年会へどうぞ!

私たち青年会は6月11~12日に、他教区の青年との交流のために長崎へ巡礼に行ってきました。今回は石田望神父(出水教会)の呼びかけで5人が集まりました。長崎では途中大雨に見舞われながらも10キロの徒歩巡礼を行いました。その後の交流会では長崎の青年たちとも親睦を深め、共にWYDに参加するものとして、思いを分かち合うことができました。翌日の中町教会でのミサや聖コルベ記念館、浦上天主堂を訪れたことで、信仰を新たなものにできました。この巡礼で得られたものを糧として、神さまのお恵みのもとに、また毎日の信仰生活を送っていこうと思っています。

毎週土曜日午後7時から教区本部「信徒共同室」で、青年の集いを開いています。また詳しい情報は青年のHP「DE☆JAM」からどうぞ。http://mz.minx.jp/dejam



集いと研修

- ホリスティック人格医療黙想「ホリスティック聖書講座」創世記監「神の摂理と祝福を、今、生きること」7月18日(月)10時~12時 ザビエル教会1階ホール 500円 *聖書持参のこと。☎090-3193-0148(古城)
- ホリスティック・スピリチュアルケア講座「ホリスティック聖書講座」創世記監「神の摂理と祝福を、今、生きること」7月19日(火)18時30分~20時30分 ザビエル教会集会室 500円 *聖書持参のこと。☎090-5739-4650(松崎)
- キッペス神父の黙想会 7月30日(土)10時~31日(日)16時30分 W・キッペス神父(レデンプトール会・臨床パストラル教育研究センター理事長) マリア山荘(霧島市溝辺町麓3616-4) 10,000円(宿泊・食事代を含む) ☎099(262)4022(宮地) / ☎099(252)8881 099(252)8890(本田)

カタリナ永俊尼の信仰(下)③

溝辺教会主任司祭 坂本 進

5 キリシタン小西一族の血統を受け継ぐ

小西行長を父とし、或いは、父としないまでもその一族に属していたカタリナ永俊尼にとつて、信仰は、カタリナ自身の強固な意志によって選ばれ続けてきたものであると共に、小西家の信仰の遺産として引き継がれてきたものでもあった、ということがいえるように思います。

日本人キリスト者の多くは、信仰とは、自分の意志・決断によって選択されているふしが見られます。しかし、信仰は、いや、人生そのものが、自身の選択によって意志され続けてきたものであると共に、恩寵(恵み)として与えられてきたものといえるのではないのでしょうか。カタリナの生き方を見ると、そこには、カタリナ自身が切り開いてきた生き方と共に、行長の遺産という恵みを引き継いできた様相を見ることができるとは、行長の養女となつて養育された韓国人おたあジュリアが、キリシタンとなつて殉教した生き方も、行長の信仰の遺産を引き継いだものではなかったのでしょうか。

関ヶ原の合戦後の小西一族の行方について、少し、述べておきたいと思ひます。敗軍の将となつた行長は、斬首。妻のお美津(ジュスタ)は、女性であることから、家康によつて、ジュ

リアと共に敗戦の責任から免除されています。堺奉行であつた行長の兄・如清(ベント)、宇土城城代であつた行長の弟・行景(ジュアン)は、いずれも敗死。行長の長男・十一歳の兵庫頭は、戦後に斬り殺されています。お美津の娘・マリアは、朝鮮との国交の便宜を図る為に政略結婚として対馬の宗義智に嫁ぎました。宗氏が徳川方に付きキリシタンも棄教したため、離縁されてしまいました。マリアは、行長敗死後、長崎の修道院に匿われて、五年後に死去しました。その子が、後にローマに渡り司祭となつて殉教した小西マ

リナは、このように小西一族の信仰の遺産を引き継いできた女性といえましょう。カタリナとおたあジュリアには、共通点が見られます。ジュリアは、時の最高権力者・徳川家康から側室になることを命じられた時、これを断るといふ性格の強さを見せ、また、家康からキリシタンを棄教するように命じられたことも拒否し、遂に神津島に流刑されてしまいました。しかし、棄教することなく、島民から「天女のような生涯を送った女性」と誉められたので、二人は共通しているのです。

6 おたあジュリアとカタリナ

カタリナは、このように小西一族の信仰の遺産を引き継いできた女性といえま

し、二人は共通しているのです。ジュリアは、家康に仕える侍女としてお城にいる間、宣教活動を行い、他の侍女たちを信者にしていきました。さらに、流刑先の新島においても、女囚となつていた者たちを禁制のキリシタンにさせてしまったのです。しかし、人との接触を禁じられた神津島においては、観想(祈

り)の生活を徹し切り天寿をまっとうしました。カタリナも、同じです。カタリナは薩摩において、政治的力量を発揮して豊臣家の旧臣、キリシタン達を匿い保護し、またキリシタン信者を増やすことに力を注ぎましたが、種子島に移った後は、人との接触を禁じられていたがゆえに、観想生活に余議なく生きていって、溢れていたカタリナにとつて、苦しいことであつたに違ひありません。

私は、「一人には、活動によつて神を信じていることを証しする(神に奉仕する)時と、祈り(観想)によつて信仰を証しする(奉仕する)時」の両方の時がある。ように思われるのです。

7 行長とカタリナ

また、人には、高山右近のように、信仰を貫くため、時の権力者太閤秀吉の命令に背きキリシタンを棄教せず、大名の地位を剥奪され、流浪に追いやられることもあり、他方、権力者に面従腹背をしながらも、信

仰の実を一部だけでも残そうとして、迫害された右近やキリシタンを匿い、保護を与える役割を担つた行長のような立場に、追いやられることもあり、行長は、右近のような潔い信仰者としての態度を取れず、板挟みの中を苦悩していく人間であつたのではないのでしょうか。しかし、心の中には、信仰の師であり信仰の勇者である右近のようになりたいという憧れを常に持つていたのです。私たちが多くも、同じように、面従腹背をする弱さを持つています。でも、また、信仰の勇者になりたいと、憧れているのです。そういう行長を、そういう私たちを、神は神の道具として使われたいものではないでしょうか。遠藤周作の小説『小西行長伝―鉄の首枷』は、そのようなキリシタン行長を描いた傑作です。カタリナは、そのような父・行長を身近に見ながら、カタリナ自身が神から受けた恩寵としての資質・性格を生かして、切つて、転ぶことなく、聖母マリアと天使のご加護を受け、不屈の信仰を貫き通し、七十五年の信仰の生涯

を生き抜きました。カタリナ永俊尼が亡くなった時(慶安二年一六四九年)、実孫の藩主光久は、流刑の罪人に対して異例である香典、しかも多額の香典をつかわし、丁重に弔つたことが薩摩家と種子島家の家譜資料に記されています。いかに、カタリナが薩摩において力を持っていたかがうかがいられるではありませんか。これは、カタリナが備えていた信仰による気迫が、周囲の者にそうさせざるをえなくさせたということなのではないのでしょうか。カタリナと共に種子島に流罪となつた娘・妙身(二元・薩摩家老喜入忠政の正室)は、万治三年(一六六〇)に死去(年齢不詳)。孫娘であり妙身の娘であるお鶴は、元禄十年(一六九七)に死去しています。しかし、その死は、種子島家資料によると、「頓死」と記されています。後ろ盾となつていた島津本家のご母堂カタリナの死後、妙身とお鶴は、後ろ盾を失い、迫害されていったのではないかと思ひられます。(丁)

文芸

俳句

鹿児島市 徳永ノブ子
マリア様お好きな薔薇のたわわなり
神の愛小さきは小さき額の花
走り去る車に落花はりつり

純心学園 川上 和
アヴェマリアさつきの空に虹うかぶ
親しみてヨハネ・パウロは福者なり
摘みて来しペンペン草や聖母月
聖母祭草餅青くシスターかな
愛光園 春山マリ子
七月の命日母を浮べてる
夏の朝チャイムの音色耳すます

出水市 沖 弘子
緑蔭に坐して語らふ修道女
瀬戸内町 豊島 忠司
夏至近し不意に親しき明鳥

純心学園 川上 和
庭に咲く白バラささげ「マリアさま
咲かせてください」平和のバラを
奄美市 林 明子
亡き父の母の声偲ぶる梅雨の空秘
めたる想ひ夕べ届かむ
ひとつだけ明りをつけておきたいの
私も帰る部屋だから
大笠利 稲 牛憲
裏の木にメジロのひなが育ち居て切

らねばならぬ予定くるはず
病油受け信仰の喜び胸に満つ余命い
くばくも無しと思へり
愛光園 春山マリ子
教会の門をくぐれば神様の信仰篤き
愛が広がり
鹿児島市 前田 儀子
得るものと失へるもの緬ひめぐる復
活祭の夜の遠雷
歳晩の母の姿をおもひ来し墓のうら
ら陽にせきれい遊ぶ
瀬戸内町 豊島 忠司
甥夫婦デイゴの巨木の洞中に入りて
男子の子を授けらる
二十日ほど入梅して見ぬ青空に仏桑
花数多陽が射して咲く

+KABAYAN SEKSIYON+ "KASAYSAYAN NG MGA KREDO"

Sa *Binyag* natin unang tinanggap ang Kredo bilang tuntunin ng ating pananampalataya. Ipinahahayag ng "Kredo," na hango sa salitang Latin "Credo" na nangangahulugang "sumasampalataya ako", ang mga mahahalagang katotohanan ng Kristiyanong Pananampalataya. Ang dalawang pangunahing Kredo ng mga Katoliko, na magkasabay na ipinalathala ng Vaticano sa *Catechism of the Catholic Church* ay: 1) Ang *Kredo ng mga Apostol* o ang *Sumasampalataya Ako*, na binibigkas sa Misa tuwing Linggo sa Pilipinas at nagsisilbing isang malawak na pagpapaliwanag ng sinaunang "Kredo Romano" ng ikatlong siglo; at 2) ang *Kredo ng Nicea*, na pinagtibay ng Unang Konsilyo ng Constantinopolis noong 382. "Pinatunayan nito ang pananampalataya ng Nicea," ang unang Konsilyong Ekumenikal na ginanap noong 325. Binuo ang mga kredong ito at nagpasalin-salin sa pamamagitan ng Tradisyong Katoliko ng Mahis teryo, ang Simbahang nagtuturo. Sa pamamagitan ng mga ito, napanghawakan natin ang buhay na buod ng Kristiyanong pangangaral.

A. Mga Kredong Biblikal
Sa nakararaming Pilipinong Katoliko, ang Kredo ay tinatanggap sa pagbibinyag ng mga sanggol mula sa ating mga magulang. Maaari itong tanggapan nang personal sa pagbibinyag sa may sapat na gulang. Mahaba ang kasaysayan ng mga Kredong Katoliko sa Banal na Kasulatan at Tradisyon. Una, mayroon mga *Kredong Biblikal* o mga pagpapahayag ng pananampalataya mula pa sa panahon ng *Matandang Tipan*. "Pagkat ang Panginoon ang ating hukom, Siya ang mamamahala, Siya rin ang haring sa ati'y magliligtas." "Walang ibang Diyos maliban sa kanya".

Sa *Bagong Tipan*, nakatuon ang mga sinaunang pagpapahayag ng pananampalataya kay Kristong Muling Nabuhay: "Ang Diyos ng ating mga ninuno ang bumuhay kay Jesus na pinatay ninyo nang inyong ipatibay sa krus. Iniaakyat siya ng Diyos sa kanyang kanan bilang Tagapanguna at Tagapagligtas, upang bigyan ng pagkakataon ang mga Israelita na magsisi't tumalikod sa kanilang mga kasalanan, at sa gayon, sila'y patawarin" (Gw 5:30-31)
Kaya ang mga itinuturo ng ating *Inang Simbahang Katolika*, ay pang-wang galing sa turo mismo ng Panginoon na ipinamana sa *Tradisyonal Apostol* na itinuturo rin sa atin sa pamamagitan ng simbahan katolika. Ito'y ipinapaliwanag din sa atin mga nananampalataya kung ano ang dapat gawi at sundin para hindi tayo mawala sa tunay na daan ng kaligtasan sa pamamagitan ng ating Panginoong Jesu-Kristo na binubuhay muli sa mga patay. Ito ang sentro ng ating pananampalataya... ang Muling Pagkabuhay ng Panginoon.

Katekismo-Pilipinong Katoliko (Fr. Dino Orolfo)